非賣品

和字功過自知錄

全

出版ノ理由

方今宇内ノ事物日ニ月ニ駸々乎トシテ進ミ海ニ滊船陸ニ滊車電燈ノ如ク或ハ學術勧業衛生等文明ノ利器一度ビ輸入シテヨリ智徳体ノ三育共ニ上達シテ其勢力一層善美ヲ盡セリト雖モ又一利一害ナキ能ハズ就中人情ノ如キハ覆手ハ雨トナリ飜手ハ雲トナリ輕躁浮薄紛々タルコト實ニ名状スベカラズシテ道徳ハ将サニ地ヲ拂ハントス予茲ニ慨アリ矣而シテ本書ハ祖先ヨリ傳來シ予少壮ノ時此書ヲ讀ミ大ニ感スル所アリ然レモ近時此書ノ剞劂ニ上ル稀ニシテ後世ニ傳ハラザルヲ憂ルコト茲ニ年アリ加之蠧魚ノ腹ニ葬ラレントシテ間々口字句解セザル所アルヲ改竄編輯シテ遂ニ宿志ヲ践ミ今般五百部ヲ限リ印刷ニ附シ樂善遷誡ノ十方諸君ニ頒タントス諸氏若シ此書ノ誨ニ從ヒ實践躬行怠タラズ以テ予ガ編纂ノ微意ヲ全フセラレナバ幸甚

明治廿三年十一月　河内覺三郎識

和字功過自知録叙

有客懷一編來出呈之。余且徵序曰。此書本袁了凡功過格。雲棲大師自知録依其條例摘其切要名曰功過自知録。著以國字譯言者。欲令閭婦癡童易通曉而受持信行也。余披閲之。視其立條分事各品。功過纖善髮惡。舉而不措。戒惡勸善。循循然誘人。親切乃感歎不輟。因謂功者積善以成功徳也。過者過惡也。其戒惡移善也。要在日記功過。月較多寡。而審己行所如何耳。過多心慚。則惡不忍爲。功多情喜。則善不能不爲。己所行日自知。而自能戒移。皆由省身正心。發誠欲踐善行道者。舍此從何求也。其言云。爲善者獲福。爲惡者罹禍。是天之定理。宜然也。曾子曰。出乎爾者。反乎爾者也。孟子曰。禍福無不自己求者。則善惡己之所出。而禍福亦得于己也。則無非自求而得之矣。由是觀之。爲人除害。救患者。已遁凶孽。育生誡殺者。享福祥也。世之求富貴利達者。亦不由是道。何以得志乎今也。人知取之爲取。而不知與之爲取也。且不悟貨悖而入者。亦悖而出之理。貪吝頑忍。唯貨財之營。而鮮有恩恤也。儻此書得愽行于世。而人人受持信修。孜孜日化家。以及郷延達邦國。則廉恥之風興。而謙讓之道立。富者知足。而窮者安生。國無偷盗。而民徳醇厚。雖姦邪殘賊之人。亦有恥且格焉。

出版ノ理由

方今宇内ノ事物日ニ月ニ駸々乎トシテ進ミ海ニ滊船陸ニ滊車電燈ノ如キ或ハ學術技藝衛生等文明ノ利器一度ビ輸入シテヨリ智徳体ノ三育共ニ上達シテ其勢力ハ一層善美ヲ盡セリト雖モ又一利一害ナキ能ハズ就中人情ノ如キハ覆手ハ雨トナリ翻手ハ雲トナリ輕躁浮薄紛々タルコト實ニ名狀スベカラズシテ道徳ハ將サニ地ヲ掃ハントス予茲ニ慨アリ矣而シテ本書ハ祖先ヨリ傳来シ予少壯ノ時此書ヲ讀ミ大ニ感スル所アリシモ近時ノ書ハ[illegible]上ノ[illegible]シテ後世ニ傳ハラザルヲ憂ヘ此コト茲ニ年アリ[illegible]之書[illegible]ノ[illegible]僅々口字句解セザル所アルヲ改竄編輯シテ遂ニ宿志ヲ践ミ今般五百部ヲ限リ印刷ニ附シ樂善遷誠ノ十方諸君ニ頒タントス諸氏若シ此書ノ誨ニ從ヒ實踐躬行怠タラズ以テ予カ編纂ノ微衷ヲ全フセラレナバ幸甚

明治廿二年十一月

河内覺三郎識

和字功過自知録敘

有客懷一編来出呈之余且徴序曰此書本袁了凡功過格雲棲大師自知録依其其切要名曰功過自知録著以國字譯言者欲令閨婦癡童易通曉而受持信行也余披閱之視其立條分事各品功過彙善類惡舉而不措戒惡勸善循循然誘人親切乃感歎不輟因謂功者積善以成功徳也過者過惡也其戒惡移善也要在日記功過月較多寡而審己行所如何耳過多則慚則惡不忍為功多情喜則善不能不為已所行日自知而自能戒移皆由脩身正心發誠欲踐善行道者舍此從何求也其言云為善者獲福為惡者罹禍是天之定理至然也曾子曰出乎爾者反乎爾者也孟子曰禍福無不自己求者則善惡己之所出而禍福各得其[illegible]也則無非自求而得之矣由是觀之為人除害救患者已遁凶孽育生誡殺者享福祥也世之求富貴利達者亦不由是道何以得志乎今也人知取之為取而不知與之為取也且不悟貨悖而入者亦悖而出之理貪吝頑忍唯貨財之營而鮮有恩恤也儻此書得博行于世而人人受持信修孜孜日化家以及郷延達邦國則廉恥之風興而謙譲之道立富者知足而窮者安生國無偸盗而民徳漸厚雖姦邪殘賊之人亦有恥且格焉

嗚呼其功偉然不亦大乎余嘉慕之問其述者姓名不顯言[illegible]之士而今既致仕其爲人也避譏不好聲聞資性慈惠常散財布恩以周人之急因思吾財也有限而乏者也無限以有限隨無限難也已不若使人遏惡脩善避禍致福自享天祐也雖然不可家至而人說也於是纂述此書鏤之梓欲以廣施與于人也云余深美濟衆之志且喜成人之美乃不顧不敏敢裁卑辭冠之篇首也爾

安永龍集乙未秋九月

平安處士　安田棟隆

功過自知録序

此書は人に善を勧めて天の福をうけしめ悪を戒て禍をのがれしめんが為にしるせり功の字はいさほしと訓して何にても精を出し苦労したるしるしの一際きつと見みたる事といふ也善を行へば廣大無邊の利益功徳のしるし顯るゝゆゑ善といはずして功といふ也過の字はあやまちと訓し又とがとも訓してあやまりしぞこなひの事也悪事をさしていふ也自知とはみづからしると云義にて我身の善悪を我心にわきまへ善なればよろこびておこなひ悪なればとそれ戒むべき事を毎日善悪を暦日の上に書付て覺知といふ事なり録の字はしるすと訓じて記録する事也袁了凡雲谷禪師より功過格を授り自身によくつとめ行て諸願成就せしより陰隲録又善悪慶殃篇を作りて功過十一品の格をしるせり雲棲蓮池大師は自知録を作りて善門過門の八類を分て委しくしるせり此書物皆華文にて愚蒙の人に通じ難たしよつて右の書物の意を取て真文字をやはらげ假名に著し功過の次第悪家婦女のよくがてんして受持信行し悪を遠け善を積禍を免き福を受ん事をこひ

ねがふもの也。若此書衆生普く信行せば家富國榮て天下長久太平ならん事疑ひなし古語に一善をなせば一惡をさる一惡さるときは一刑をやむ家に一刑をやめば國に万刑をなくして天下自安寧也といへり現世の利益かくのごとし来世の果報豈空からんや詞の鄙陋をもわすれているかせにすることなかれ云爾

功過自知錄大意

一人の世にある貴も賤も君親をうやまひ兄弟を親しみ妻子とむつまじくし親類縁者眷属をめぐみ朋友をいつくしみ困窮の人を扶助し身を謙り心を正しふして我行跡をつゝしみそのつとむべき家業を大切に守るべきなり左はあれど其身に應じ願ひのぞみ多きもの也或ハ官位にのぼり俸錄を加増して家門をかゝやかさんと願ひ或ハあながちに財寶をのぞみ世継をもとめ又ハ親類の疾病をかなしみ知音の困窮をすくハんと思ふもあれども種々の災難さわりありて願ひ事かなひがたく佛神三寶に祈れどもその靈驗も少く又ハ貪欲熾盛にして道理をそむき人をいためても我ひとり福者にならんと百計謀慮して思ひこがし心神をなやまし苦む人もあり唯人の難義をすくひ生あるものゝ命をたすけ慈悲心を起して種々の善根功徳を積てより天地の冥加佛神の守護にあづかりいかなる望みも叶ひ壽福も来るべきに人の患をかへりみず己獨りさいはひを貪る人はたとひ一旦の利運にて當前の利徳ありといふとも終に天地の冥罰を

うけて末必ず禍に遇ふなり加持祈禱智慮計策をさしとき唯一心に此功過格を受持し善をつみて功徳となし幾百幾千の善功とつもりて乃至一万功にも滿ぜば禍のぞき福きたりていかなる願のぞみとも成就せずといふ事なし身の善悪をかへりみず佛神に祈り求むるよりは百倍の靈驗ある事掌の上に見るが如し

一功過格を受持して信行する人はもつぱら毎日善事をのみ積んとしてこのむで過悪をなすべき理はなけれども無據目前の利欲にまどひ誤りて過悪にをつることもあらば則改めて善行を多く行ふて過をすくふべし善事そこばくありとも過悪の條格ほど善事きゆると心得べし先毎日行ふ所の善と悪とを一々書記して暦日の上にしるしを一善は⊖を記十善は⊕を記百善は⊛を記一過は×を記十過は✳を記百過は⊠を記右の印を毎日記し置て月の晦ごとに善悪の數をたゞすべし此印をなす事は射を稽古する人の安土的を拵へて射ることを修練するがごとし的の目あてなければ中りのほどをしる事なしさて月の朔日十五日に昊天に花を捧香を燒き功過格を受持する旨を天に告げ奉り又はたつとぶ所の佛神に告げ奉りて願ひ事あらば申べし若又過悪あらば我罪をさんげ禮拜すべし必佛神の感應ありて所願滿足する也袁了凡は子孫のなき人相なれども天に誓ひて三千の善行を修しければ則天啓といふ男子を持けり一万の善行を修しければ寶坻縣といふ所の奉行職に成り殊に五十三歲の命厄とありしも七十歲におよびてもつゝがなかりしと也或は此功過格夜ひかりをはなち又夢に金字と化し銀字と化すと見て兄弟の子をもうく其外靈驗擧てかぞへがたし文しげきを以て略之

一袁了凡云前代の賢者も多く此格を修行して明徳を成就する人幾百人富貴幾千家といふことをしらず心まことありて願心堅固ならば此功過格すなはち造化の主となりて禍をのぞき福をあたへたまふこと神妙なりといへり

一毎日善行を修して月日を重ねて微しの過悪もなく善行をこたりなくば純善といふてもつとも奇特の事なり純はもつぱらと訓てものゝまじりなくさつばりと一いろなる事也善功一色にて微しも過悪の雜らぬを純善といふ也一日に十

善ならしに積れば一月に三百善也一年にハ三千六百善に至るへしゝかれば厳重に微の過とも必記べし善功と記す事は詳にして過悪と記す事と恕すべから
ず陰隲録に袁了凡曰福と護禍に遠ざからんとともふものハ善と行ふ事よりは先過と改むる事肝要なり人々過と改むるに事の上より改むるものあり理の上より改むるものあり心の上より改むるものあり其改めやうによりて効験と得るに不同ありといへりよく我身とかへりみれば我所行すべて過悪のみ多ければふかくはぢ畏て勇猛に過と改むべきなり志あつければ改過の事さまでむつかしき事にあらず猶陰隲録とみるべし

一善と積ことは皆日用の行ひにて金銀と用ひついやすことなきゆへ貧しき賎の男賎の女までも行ふにやすき事なり

一主君父母にすゝめて善事と行はしむると十善とす他人ヿ勧るは一善とす君父は我が上に立て己れと軽んぜる人なるゆへ勧化し難く他人は勧化し易き故也

一善門の内はなハだ微ばかりの善行なると引あげて一善とす是小善ともすてざれば又小悪とも恕さぬ也しかるに小善のなしやすきと倦してなし難といとふて弃つべからずもとより人と救ひ物とあわれみ恵む實心よりなすことならでハまことの善行にあらず善事といへども名利のために倦し又ハ價ととり賂とうくる等はすべて善行にあらずとしるべし

一百銭と以て一善一過に準ぜるといへども貧富によつて進退あることなれば其身の分限にあるべし貧女の一燈といふ事のあれば富饒の人は心と付べき事也

一至極の大悪非道の事は功過格受持する人の限にあらずよつてこれと記さぞハ我心にあれば何ぞわづらハしく書記に及ばんや

一或人曰善となし悪ときる事ハ我心にあれば何ぞわづらハしく書記に及ばんや答云隨分善と行ふとともへども善は少く決して悪ハせぬとともへども悪は多きものなればくはしく書記さゞれば善悪多少のしるしなし毎日書記す上にて分明ヿ善悪の多少よく見ゆれハ小悪もよくいましめてなさず小善とも惰らず勤行ふ時ハ則其行ふ所行往坐臥皆純善となる也禍福ヿ門なし皆人の招く所也とて吉ヿ逢ひ凶ヿ逢ふ事皆我所行ヿよつて天より善悪の報と下だし給る事也

我頭をあぐる事三尺放して神明也心を正しく行を慎み聊も罪を天地佛神に得ざるやうにし身を謙て己をせめ天地佛神としてわれを憐玉ふやうにすべし是功過格を修する人の意得也天は高しといへども背をくゞめ地は厚しといへどもぬきあしせよと詩經に見へたり天地を畏れて慎むべき事也

「或人曰禍福壽夭皆天命あり功過格を修して若しるし無き時はいかん答云極善の人と極悪の人とハ一概の論にはかゝわりがたし禍福は天命也といふは凡俗の論也禍福おのれより求めざるものなしと孟子に見へたり積善の家には餘の慶あり積悪の家には餘の殃ありと易經に聖人の説玉へば禍福壽夭我所行とさしとき唯天命也といふは大なるひが事なり若功過格を修して驗なくば励ていよいよ修行すべし必其靈驗を蒙し事古今の書籍にのせて明らか也よしやたとひ驗なくとも悪をやめ善をなすは天地の理人間の常道なり外に論ずべきなし

一蓮池大師云功過格の利益は現在の華報なりといへども則來世の果報となりて功徳はかるべからず

功過自知録大意終

功過自知録

善門　忠孝類

一父母につかへうやまひて心をよろこばしめよく養ふ一日一善 ○ことさらによろこび或は楽しみ給はゞ別に一事を一善 但しつかふれどもうやまはずやしなへども父母の心によろこびたまはざれば善にあらず

一父母の仰にしたがひをしへをまもりてそむかず一事一善

一父母のあやまりといさめ大道をすゝめみちびく一事十善 ○父母に佛法をすゝめみちびく一事廿善 ○父母財寶をかりてかへさゞる其子つくのひかへす百錢一善 ○繼父母祖父母舅姑は實父母の善に一倍をくはふ

一兄をうやまひ弟を愛す一事一善 ○異父母の兄弟は一事二善

一君につかへ忠をつくしはげみ勤る一日一善 ○諫言は小事一善大事十善極大事五十善

一師の恩をわすれずよくうやまふ一日一善 ○師のをしへをまもりてそむかず一言を一善

一父母と始尊属主君師長の勞にかはる一事一善

一父母先祖のまつりをふらい分限のかぎりはあつく志をつくす 百銭を一善

一親類を折ゝふれ麁食にてなりとも饗應し情意をあつくしたしむ 先祖をまつること同し

過門　不忠孝類

一父母をやしなひて敬はず 一事一過 ○父母責めいかり給ふ時におのれが意にいかりをなす 一過 ○かほつきをかへことばをあらくしてさからふ 十過 ○父母の愛し玉ふ物をことさらにうすくする 一事一過 ○うまき食物を得て父母に奉らずまづ自食ふ 一食一過 ○父母の前にて子ども家来等の過をいかり悪言を出す 一過 ○同うちたゝく 二過 ○父母に恨の心を發こさせうらみのことば生じぬれば 一言三十過

一父母のあやまちをいけんせず 一事十過

但諫すれども受たまはざるは過にあらず

繼父母　養父母　祖父母　舅姑等につかへず 一事一過

一我親を愛せずして他人を愛し我親をうやまはずして他人をうやまふ 一事五過

一父母のやまいをうれへず死したまふをかなしまずとふらひをなさず 一事十過

一いれぼくろ又は悪事をして身にきずをつくる 十過

一主人のためをしんじつにおもはず身をかばひて十分にはたらかず 一事一過 ○諫むべきを諫めず小事一過 大事十過 極大事五十過

一師匠をうやまはず 一日一過 ○師のをしへをもちひず 一言一過 ○師にそむく 三十過

但師匠非道ならば過に非ず

一あやまちをかざり父母主君師匠のいけんをきかずかへつてあらそひいかる 十過

一父母主君師匠をそしる 一言十過

一兄弟怒あらそふ 一事二過 ○異父母の兄弟は 一事三過

一國のしきをそしりあるひは法度をそむき先祖のをきてをそむく 一事一過

善門　仁慈類

一人の一命をすくふ 百善

一重病をかいはうし病人の心に満足せしむ 一人十善 ○かるき病は 一人五善 ○藥をほどこ

きれ一服一善 ○無縁の病人とつれかへりやしないかいはうす一人二十善
一死罪に行ハるゝ者のいのちとすくふ一人五十善 ○上たる人人一命とゆるさば一人八十善 ○ながしものになるとすくふ一人百善 ○杖刑とすくふ一人十五善 ○笞刑とすくふ一人十善
但義理あきらかならぬ私になるは善にあらず
一子ところさんとするを見て救ひやしなひそだつる一命百善 ○子抜ころさんとする人といけんしてとゞむる一命八十善 ○棄子と養ふ一命八十善 ○胎子と抜ろすとすくふ一人百善
一家族中をはじめまづしきと周ハしともだちの患難とたすけ又我家に久しく出入する者にほどこし老て子なく幼少にして父なき者惣じてたのむ所なきこんきうの人とすくふ百銭一善 ○上のごとき困窮の人とつれ歸り養ふ一日一善
一人の憂あると見聞てあまりなげかぬやうにいひなぐさむる一善
一ねが金銀とかしたる人びんばうしてかへす事なりがたきとゆるす百銭一善 ○年々利足と取たるにその人なげきことあるにもどしがたきとすいりやうしてゆるす二百銭一善
但うつたい願ひたれども滞ありてぜひなくゆるすハ善にあらず
一凶年に米の直段に高利とらず賣出す百銭一善
一餓たる人とすくふ一食一善 ○煩渇たる人に湯茶とあたふ十人一善 ○こゞへたる人とあたゝめ一宿せしむ一善 ○綿いれ一ツほどこす二善
一夜燈とともして人のゆきゝとてらす一夜一善 ○やみの夜にてうちん松明とほどこす一人一善 ○雨ふりにあまぐとほどこす同し
一貧人役にさゝれたる時病氣抔に疲くるしむしごとと手つたふてたすくる一時一善
一むしつのなんとうけたる人といひひらきとしてやる一人卅善
一つかふたる女とよめ入さする一人十善
一まづしき人のむすめよめ入しがたきとその親にかはりてよめらす十善 ○こんきうの人子供と賣と見聞て金銀と出し取かへしやる十善 ○買取たる男女とかへ

じつかねし其代金をとらず十善○人にかわりて借金をつくなひかへす百錢一善

一山林田地をゆずり作徳をゆずりあたふ徳分百錢一善

一死して葬禮をなすべきちからなき人にほどこす百錢一善

一すてたるしがいを葬る一人廿善○すてたる骨を葬る一人十善

一かげみちどろみちすべり道などをつくりてゆきやすきやうにする百錢一善○所のたすけとなる井戸を堀やすみ所をたて往来の橋をかけ渡船をつくる同し

一往来のつまづくべき石木の根又は衣服を損ずべきいばらがらたち釘等を取のぞく十事一善

一たがへしをたすけ人をのせおもき物をひく牛馬家をまもる犬時をしらする鶏かやうなる人に益あるもの、命をすくふ一命廿善

一猪鹿雁鳬などの人に益なき者の命をすくふ一命十善○魚鼈のたぐひちいさきもの、命をすくふ一命一善○細なる魚蠅蟻蚊虻などのしごくちいさきもの、命をすくふ十命一善○一切の善根は物の命をすくふよりよきはなし救とは買てはなし人の殺をとゞめ又は禁制するなど也ちいさき命をすくふは善多しとおもひもつぱらちいさき命をすくひて大命を救くはざるものはおのれが福をむさぼりて物をあはれむ心なきゆへ小善にあらずたかきあたひをおしまず大命をすくふものはたゝくのしごく微命をすくふと同し善なり

一祭ふるまひなどの嘉例に生類をとりて殺ところさを市に買もとめてかひりとす
上に同し

一蛇蠍などの物には害あれども人に害せざるものゝ命をすくふ一命一善

一蜘網をやぶる十を一善
但現在には虫のくるしみをたすけ當来には能刈の蛛のむくひをすくふなり
かならず蛛をころすべからず

一れうしかりうど殺生をするものゝ家業をあらためよとすゝむ三善○過を悔ひかげうを改さする一人五十善

一つかさの人せつしやうを禁断せしむ一日一善

一家にある犬にはとり牛馬などの死するをうづみかくす大命十善小命五善仏事にてとぶらはゞ一命五善
一鳥けだものに食をほどこす二食一善
一にくじきの人殺すを見てくらはざる一善○ころすと聞て食はざる一善○我を饗応ためにころすとゞめて不食一善

過門　不仁慈類

一人の重病を介抱せずすくはざる一人二過○かろきやまひは一人一過
但貧くしてかいはうしがたきわけあらば過にあらず
一父母はらみ子をおろす百過
一上たる人非法のしわざをする一たび用ゆるを十過
一罪なき人をむちうつ一打一過
一上にある人下をしへたげなやます一人卅過
一人の憂なげきを見てなぐさめざる一過○かへつてこゝろよしとす二過○など其人に
患をくはへます五過○人の利を失ひ名をうしなふを見て心によろこぶ二過○人の
栄へるを見て妬み悪ておちぶれんことを願ふ五過
一むしつの難をうけたる人といひひらきのなる事を知ながら救はざる五過
一凶年に米をもちて人を救はず高直を願ふ五十過○人の売るをとゞむ同じ
一まづしき人にかしたる物をぜひとらんとてつよく訴ふ五過
一宗族をはじめ朋友又はたのむ所なき困窮の人のうゑこゞへたるを見てすくはざる一人一過
但我身はなはだまづしくば過にあらず
一天道は盈をかくの道理を辨まへず富貴の身まて財宝を措施さずいやがうへにましあつむる者住所の地一日三過
一瞽人つんぼ病人愚人老人小児をだまし嘲弄する一人十過
一人のはかを堀あばき中にありたる骨をすつる一所五十過○人の塚をつきくずしたいらかにする一所十過

一權威をもつて人の田地房屋を賣十過あたひ百錢○同しく強て下直に買取一過百錢
一どり道をそんじ人牛馬のわうらいをなやます一日五過○橋渡舩井戸人のやどりなどをそこなひくぞす同し
一人に益あるけものをころす一命廿過○あやまりてころす五過○人に益なきけものをころす一命十過○あやまりてころす二過○ちいさきけものをころす一命一過○あやまりてころす十命一過○しごく微畜を殺十命一過○人に殺さするもみぞからするに同じ○人の殺をほめてつたふ同じ○常の食物に殺同じ○けものをやしなひて人に賣てころさする同し○妄に禍福を談じ神をまつる爲に殺す同し○藥餌に殺す同し
一人の殺生するをとゞめぞ上の過の半分
　但とゞめんとも力をよばぞね過にあらぞ
○止むる事ならずとてあはれみの心をおこさぞ二過
一たがへしをする牛人をのせる馬家をまもる犬などの老やみて死するにその肉を賣大命十過小命五過

一せつしやう禁斷の時にせつしやうをなす上の過に一をいそくはふ○ひそかに買ふ同し
一食物に川魚を煮ころし鳥けだものをやきころしてむごきくるしみを受しむ同し
一鷹をはなち犬をかけ魚を釣り鳥を射きづついて死せぞば一物五過○きづゆゑに死せば前の之同しせつしやう○虫の冬ごもりをあばきね鳥をおどろかし穴をうづめ巣をこぼち卵をとりはらめるをやぶる同じ
　但はしをわたし路をつくり寺院堂塔をこんりうするなどもろ〳〵の善事をなす爲に無據なすならば過にあらぞ程よく追福すべし
一鳥けだものを籠にいれおりにつなぐ一日一過
一生あるものゝ死を見てかなしみの心をおこさぞ一過
一人に益ある鳥けだものゝ肉を買もとめてくらふ三過
一牛馬をれひつかひてくたびれ疲れたるを矜まぞむりにつかふ一時一過○そのうへうちたゝく一打一過

善門　雜善類

一家をさむる人父子兄弟夫婦の間むつまじくうやまひて家人とあはれみ恩とほどこし人とつかふにせはしからぞ金銀とつかふにむやくのことにはすこしもづいやさぞ人のなんぎと濟ひ何にても善事とするにはとしまぞ色欲とつゝしみ恥としりて悪行なき人は衆人の見ならふ手本となれば住所の地一日五善

一武士百姓職人商人共に家業とこたらぞよくつとむるは國家のたからなれば住居の地一日三善

一つねに足ることとしりて費とはぶき儉約とまもる一事一善○麁服一衣一善○麁食一食一善

但きるものくひ物とかるくするは身の分限と守り福とやしなひ身の養生にもなりたからとたくばへて人のなんぎとすくふためなり慈悲の心なくして吝ばかりは善にあらぞ

一たつときも賤もしやわせのよきも悪しきも其分にやすんじ天にまかせてむさぼらぞ一事十善

一つねに人のためになりし事ありやなしやとはが身とかへりみて善事あるとよろこびなければはげみて人のためよき事となし我ためにせざるものは住居の地一日一善

一ひとの善事となすと見て我もかならぞ行ふ一事一善○善と見てともによろこび悪と見ては我身と省一日一善○過と知りて改むる一事一善

一善に伐らぞ勞と施さぞ一事一善

一己が心ともつて人の心をしはかり人のすく事は施しきらふ事はほどこさぞ一事一善

一位たかく威勢つよくとも少しもたかぶらぞ人とあなどらぞ一事一善

一家とおさむる人妻とみちびき子どもとをしへ善事となさしむ一事壹善○内のもの下女小者まで心とつけよくあはれみさほうと正しくゝしてみだりに腹とたてしからぞとくとがてんのゆくやうにいくたびもとしへ心のよくなるやうにみちびく一事一善○我ふだん取あつかふ諸道具衣類など大かたは自身にして召つかひせわしきとたすくる一善

一人の諫をよくきゝいれしたがふ一義一善
一男女不義の色事を云かくるに道を守りてそまらず五十善
一心にゆるせしを人ハ知ずとも義をまもりて變ぜず十善
但季札が劍を樹の上にかけたる類なり
○身命をすてゝ義をまもる百善 ○義理ある財寶を寄託られたるに義をかたくまもり約束を負かずかへす百錢一善
一恩をうけてハわするゝ事なく必はうず一事一善 ○恩を報ずるに受たるほどよりすぐる十善
但正道をやぶりてハたくしの恩をはうずるハ善にあらず
○うらみあれどもむくわず一事一善
一人より無理なることをうけてよくかんにんす一事三善
一しあはせわろくもろ〳〵の患難にあふに天を怨みず人をとがめずしてしたがひうくる一事三善

一ときめく人にへつらハず十善
一いけにへをころす等の悪願をとゞむ五善
一過ハ我に受け功を人にあたふ一事二善
一人より非道をすゝめ又ハ邪なるたくみををしゆるをかたくうけず卅善
一人の見ざる所を愼み悪事をせずかげひなたなきやうにする一事一善
一とるまじきたからハ潔白にとらず百錢一善
一おちたるものをひろひ主をたずねてかへす同じ
一人をすゝめ金銀を出させて善根功徳となさしむる者出る所百錢一善
一人より悪銀をさづけたるを悪銀としりてハ外〳〵へつかハず弃置三善
一我財産ハ失ふとも人のしんだいを全ふせしめんとす五十善
一文字の書きたる紙路にをちてあるをひろひて火にやく百事一善
一よき人をあげもちゆ一人十善 ○あしき人をおひ退く一人十善 ○ひとの善をほめすゝむ一人一善 ○人の過をそしらず人の悪をいハず一事一善 ○人の悪をいひふらすものをと

ゞむ五善
一もろ〳〵の賢善の人とうやまひ供養する一人五善○よき人とあなどり毀とゞむ五善
一一命にとよぶ訟となだめとゞむ十善○人の不和なるとなかなとりせしむ一善
一人にはなれだ利益あることばといだす一言十善
　但揚震が天知る地知我知汝知ると言し類なり
一人の一事の非と諫して改しむ一人一善○悪心と善心に改しむ一人十善
一一人の家業と成就せしむ十善○一人の學業と成就せしむ廿善○一人徳業と成就せしむ三十善
一しごくよき書物とつくる一巻十善○巻とほくとも百善にとゞまる○註譯同じ
　但自分のひがめるりやうけんにまかせたるは善にあらず
一印施してひろむる百錢一善○講譯一席廿人以上一善え二○人多とも八十にとゞまる
　但人に益なきことゝとくは善にあらず

○しんじつに講譯ときくもの一席一善
一利益ある書籍と人にきかす一善
一善道とすゝめ一人と利益す一善○一方と利益す十善○天下と利益す五十善○天下後世と利益す百善
一功過格とれしへしらしむ一人五善○人とすゝめて功過格と行はしむ一人五十善

過門　雜不善類

一四民ともにとのれが家業とつとゆす身とらくにし過分の利徳とむさぼりて非義とかへりみず一事十過
一足ることとしらず分限に過てけつこうなる事と好一事一過○過分の美服一過一イ家飾
一一三過間美食一食一過
　但父母に奉るは過にあらず
一女房子供とれしへみちびかず不善となすと見てとゞめず一事一過○家来男女とも同じ

一女房子兒家來どもの過あるといかり悪言を出しうちたゝく一事一過
一家の主たる人ざんげんを信ず 小事十過 大事卅過
一婦人のりんきねたみ五十過
一しんるいと交合し尼を犯し身もちをかたくする婦をくどきをとす八十過〇意にともう十過〇貴人の娘をおかす四十過〇意にともう五過〇召つかふ女十過
一悪事を相談すべきために酒をのむ一件六過〇よからぬ者とのむ一件二過
一尊き卑のついでをみだり不禮とする三過
一和漢の得がたき寶をつのり求る一過
一人の善を見て行はず一事一過〇小善を軽んじて不行一事一過
但大善を行んために小善を捨る過にあらず
〇慢心にて人に問ことをこのまず一事一過〇心にあやぶむことをなす一事一過〇過をかざり諫をきかす二過〇かへってあらそひいかる別に一過〇過あれども改ためず一事一過
一相談には我のきがひがみたる我もはくといひつのりて人のよき了簡につかず一義一過
一心にたくみたるうそは一過〇心にたくまざるうそは一事一過〇知らざる事を知たるやうにいひ意に疑しき事を強ていふ同じ〇身もちより言すぐる一過〇悪念なくとも人の害になるうそは十過〇兩舌にて人を不和になす三過
一義にそむき人の心もちをあしくすることばをいだす一言十過
但曹操が我は人にそむくとも人は我にそむく事なかれといひし類也
一みずから道をあきらめ悟たりと言て人を惑はす一げん五十過〇我をほめて人をそしる二過我善事を人にほこる一事一過
但人をすゝむるためにかたるは過にあらず
一約束をそむく小事一過大事十過〇寄託たる財は百錢一過
一恩をうけて報ぜず一事壹過〇寃あるを必ず報じ同じ〇いかりて寃を報ずることを分に過ろ十過〇我に恨みある人の滅ことをねがひをもふ一過〇うらみある人のほろびたるを聞て心によろこぶ一過

一衆にまじわりて己が爲ばかりとともふて衆の爲とともわぬものわとる所の地一日一過
一金銀と損し又わもろ〳〵のなんぎにあふ時我あやまちとともわず神佛とうらみ人とどがむ一事三過
一功あきばとのきにうけ過あきば人まあとぶ一事二過
一とのれがいかりともつて人の親子兄弟等のあいだと不和にする卅過○人の縁組とさまたぐ五過
但縁組すべからざるわけあらば過にあらず
一取まじき金銀とどる百錢一過○ひろひたる物と主まかへさず同じ
一財寶とぬすみとる一はり一草一錢より一過（こす以上わ百錢を一過）○庄屋などの目とかすめ年貢とぬすむ同じ○權威と以てとどして取りたくみて詐取百錢十過
一種々功德のために人の施入したる金銀と私用に遣ふ百錢一過○三寶の物わ十錢一過
一まいなひとうけて人とりつしんさせ人の罪とゆるす百錢壹過

○賄とうけて人の役義とどりあげ人れ罪にれとす百錢十過
一あく銀と知りてつかふ百錢三過
一升秤等かろく出しれもく入百錢一過
一人の金銀れかりてかへさず百錢一過○他の金銀れかりて主の死なん事れ願ふ十過
一金銀れ人にかす時にねんれいれす不埒なればいかりてきびしくせめはたる一過
一人の財産のほどれ推量してみだりに人にいひふらす一過
一愼しむべき日ま肉と食ふ一食二過
一米麥とむじめ五穀わ天のたまものなるとあらしそこなふ百錢あたひ一過
一人わ財産とうしなひ家のつぶれるもかまわず我獨損とせず家とまつとふせんとす五十過
一文字とかきた反古まてしきふすまとつくり不淨物とつゝみ拭ひなどする一字一過
一文字のある紙とちてあるとかまわず十字一過
一よき人ととりあげず五過○かへつてとさへる十過○あしき人ととさげず五過○反

て助とする十過○人の善とかくす一事一過○人の悪とあらはす同し

但止事と得ざる對決ま及び道理の趣く所と中断相手罪ことつるゝ過にあらざ○害とのぞき人とすくふためにいふは過にあらざ

一たはふれたる文章草紙うたへものなそらへ造りてよきひととそしりけかす一事卅過○人に綽號とたつるえやりうたと造て人の悪といふ一人五過

一大賢ある師とせざ五過○勝まる友あると交らざ二過○かへつて毀りあなどる十過

一聖人とそしり悪口する百過○賢人君子十過○貴人十過○同輩四過○下輩一過

一人にとしへて不善となさしむ一事二過○人に不忠不孝等の大悪とをしふ一事五十過○人の不善と見て諫せざ小事一過大事四過

但其人つねぐ\わがまゝにて決して諫受ざるとしらば過にあらざ

○人にいけんいふてきかざればかへつていかりにくむ一過

一人の一命にとよぶ訟とすゝむ三十過○人の口論あらそひの手つたいとする一過

一酒肴と商なひ人とよびあつめてのみくひせしむ一人一過○殺生博奕などの道具と商ひて人に賣あたふ一人一過

一人に好色とむゝむる書物文章あらはす一篇一過○世間にひろまらば一人二過

但一篇とは歌は一首文は一段といふ

一邪法又は胎とおろす藥種々の悪法と人にをしふ一方廿過

一善法とをしんでつたへざ十過

但其人才智あさくしてつたふるにたらさるは過にあらざ

○善法のじやまとしてひろまらぬやうにする十過

但邪見又誤説ならば過にあらざ○善法なれどもふかくつゝむべき時にあたりては時にしたがひとゝまる過は非ざ

一自身功過格と行なへども人にすゝむることとおもはざ卅日一過

但勸むれどもとこなはぬは過にあらざ

三寶功徳類

自知録に三寶の功徳こと〴〵く擧といへども此書は專俗人の爲なれば是と略す

尤大乗の教門は不可思議の功徳なれば一切の善男子善女人三寶の利益廣大なる事を信じ及び世間の教法をもに尊信し奉行して利益を蒙るべし

功過格を受持する人毎日此書を見て日々の功過明らかに記すべし若此書に洩たる事あらバ例を引て記すべし月の終に善過を相くらべて多寡を見年の終に總比て罪福を知るべし

年號干支	朔日		二日		三日		四日		五日		六日		七日		八日		九日		十日		十一日		十二日		十三日		十四日		十五日		十六日		十七日		十八日		十九日		二十日		廿一日		廿二日		廿三日		廿四日		廿五日		廿六日		廿七日		廿八日		廿九日		三十日		月の終に相くらぶ		毎月余る所の純善
	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善	過	善
一月																																																															
二月																																																															
三月																																																															
四月																																																															
五月																																																															
六月																																																															
七月																																																															
八月																																																															
九月																																																															
十月																																																															
十一月																																																															
十二月																																																															

一年總くらぶ 善合 過合

あまる所純善凡得

明治廿三年十一月廿四日出版御屆
同年同月同日出版

編輯兼發行者　香川縣平民
河内覺三郎
縣下鵜足郡法勲寺村大字東小川二百五番戸

印刷者　香川縣平民
森井龍太郎
縣下那珂郡象郷村大字苗田九十八番戸

ZJ-409

019889-000-6

特17-262

和字功過自知録

河内 覚三郎／編

M23. 11

ABG-0721